

保育内容（健康）の指導法に関する一考察 —クロスロードの問題作成と実践を中心に—

石川 拓次

要旨

本研究の目的は、保育内容（健康）に関わるクロスロードの問題作成および実践の結果を通して、保育者が子ども達に保育内容の健康領域の指導法について考察することである。保育者養成機関の学生にクロスロード問題の作問および実践を行った。その結果、保育内容の健康領域に関するクロスロード問題が6問作成された。その内容は、生活習慣に関すること、運動遊びに関すること、安全に関すること、そして、感染症予防に関することと多岐にわたっていた。また、実践を行うと、回答の比率割合が、5:5になる問題が2問、そして、1:9になる問題が1問であった。以上のことから、保育内容の健康領域に関する指導について、クロスロードの作問と実践を行うことにより、保育に関する様々な役割の立場に立って課題について考えることを可能にする。そして、子ども達を指導する際に必要となる想像力を育むうえでも効果的であると考えられる。

キーワード 保育内容（健康） 指導法 クロスロード

1. 緒言

世界保健機関 (World Health Organization, 以下 WHO) は「健康」を「Health is a state of complete physical, mental and social well-being and not merely the absence of disease or infirmity.

(病気ではないとか、弱っていないということではなく、肉体的にも、精神的にも、そして社会的にも、すべてが満たされた状態にあること)」（日本 WHO 協会, 2010）と定義している。WHO 憲章の前文には、全世界の人々が最高水準の健康を享受することは基本的人権の一つと記されており、幼児から高齢者にいたるまで保障されるべきものであると考えられている。

幼児における健康は守られるものであり、一方でこれからの人生を歩む上での「生きる力」を培うために自らが進んで会得していく必要があるものである。

幼稚園教育要領 [文部科学省, 2017], 保育所保育指針 [厚生労働省, 2017] および幼保連携型認定こども園教育・保育要領 [内閣府ほか, 2018] の保

育内容の教育には、「健康・人間関係・言葉・環境・表現」の5つの領域が設けられている。領域とは、心情、意欲、態度を身につけていくための活動や体験のことである。これらは生きる力へと繋がり、生活の基礎となるべきものである。

保育者はこの5つの領域に渡って幼児の活動や体験を援助することとなる。この5つの領域にはねらいと内容がそれぞれ示されている。ねらいとは、子どもが身につけることが望まれる心情、意欲、態度などの事柄のことであり、一方で、内容は、保育者が援助して、子どもが環境に関わって経験する事項であり、また、子どもが健やかに成長し、その活動がより豊かに展開されるための発達の援助ということが出来る。

平成29年に告示された幼稚園教育要領には3歳以上5歳未満における保育内容の健康領域におけるねらいを以下のように示している。[文部科学省, 2017]

〔健康な心と体を育て、自ら健康で安全な生活をつくり出す力を養う。〕

- (1) 明るく伸び伸びと行動し、充実感を味わう。
- (2) 自分の体を十分に動かし、進んで運動しようとする。
- (3) 健康、安全な生活に必要な習慣や態度を身に付ける。

また、内容は以下の 10 項目が示されている。

- (1) 先生や友達と触れ合い、安定感を持って生活する。
- (2) いろいろな遊びの中で十分に体を動かす。
- (3) 進んで戸外で遊ぶ。
- (4) 様々な活動に親しみ、楽しんで取り組む。
- (5) 先生や友達と食べることを楽しむ。
- (6) 健康な生活のリズムを身に付ける。
- (7) 身の回りを清潔にし、衣類の着脱、食事、排泄など生活に必要な活動を自分でする。
- (8) 幼稚園における生活の仕方を知り、自分たちで生活の場を整えながら見通しを持って行動する。
- (9) 自分の健康に関心を持ち、病気の予防などに必要な活動を進んで行う。
- (10) 危険な場所、危険な遊び方、災害時などの行動の仕方が分かり、安全に気を付けて行動する。

さらに、保育所保育指針では 1 歳以上 3 歳未満の健康領域のねらいを以下のように示している。

[厚生労働省、2017]

[健康な心と体を育て、自ら健康で安全な生活をつくり出す力を養う。]

- (1) 明るく伸び伸びと生活し、自分から体を動かすことを楽しむ。
- (2) 自分の体を十分に動かし、様々な動きをしようとする。
- (3) 健康、安全な生活に必要な習慣に気付き、自分でしてみようとする気持ちが育つ。

また、内容は以下の 7 項目が示されている。

- (1) 保育士等の愛情豊かな受容の下で、安定感をもって生活をする。
- (2) 食事や午睡、遊びと休息など、保育所におけ

る生活のリズムが形成される。

- (3) 走る、跳ぶ、登る、押す、引っ張るなど全身を使う遊びを楽しむ。
- (4) 様々な食品や調理形態に慣れ、ゆったりとした雰囲気の中で食事や間食を楽しむ。
- (5) 身の回りを清潔に保つ心地よさを感じ、その習慣が少しずつ身に付く。
- (6) 保育士等の助けを借りながら、衣類の着脱を自分でしようとする。
- (7) 便器での排泄に慣れ、自分で排泄ができるようになる。

保育者は保育内容（健康）について、これらのねらいや内容に従って子どもと一緒に活動したり、援助をしたりする。

保育者養成機関においては、この保育内容について総論から各論が幼稚園教諭免許および保育士証の必修の科目として設定されている。筆者が担当する保育内容（健康）については、2 年次の後期科目として設定されている。講義内容としては、先に述べたねらいと内容から、「運動遊び」、「食習慣」、「生活習慣」、そして、「安全対策・教育」のカテゴリに分け、教授を行っている。さらに、講義の始めに「生命・健康の大切さ」をテーマにした学習を入れている。このテーマ学習は、それぞれの時間に「生命の誕生」、「生きる」、そして、「死」といった個別のテーマを設け、そのテーマについての学生の考え方や想いを共有していくものであり、情報機器の使用も取り入れた講義形式となっている。

一方で、健康の領域の指導については、幼稚園等の生活や遊びの活動の中で多くの時間をかけて行われている。しかし、その活動には明確な正解があるものだけではなく、さまざまな解答の中から子ども達や他の保育者とともに考えていくことが必要になることもある。このように正解のない課題に対して、皆で考えていくことにより互いを認め、多様な考え方に触れることは保育者として子ども

達を指導していくうえでとても重要であると考えられる。

このように正解のない課題について考えていくコミュニケーションゲームに「クロスロード」[矢守, 2009]がある。「クロスロード」とは、「岐路」、「分かれ道」のことで、そこから転じて、重要な決断、判断のしどころを意味している。「クロスロード」は、1995年に起こった阪神・淡路大震災が契機となり、災害時に市民や行政の職員などが対応する明確な正解のない事項について、互いに話し合い、困難感を克服するために考え出されたものである。いまでは、災害だけではなく、学校安全や食品安全衛生など様々な分野で問題が作成され、リスクマネジメントを学ぶ研修などで利用されている。

今回、保育内容（健康）に関わるクロスロードの問題作成および実践の結果を通して、保育者が子ども達に保育内容の健康領域の指導法について考察したので報告する。

2. 目的

本研究の目的は、保育内容（健康）に関わるクロスロードの問題作成および実践の結果を通して、保育者が子ども達に保育内容の健康領域の指導法について考察することである。

3. 方法

3.1. 対象

対象は、A大学短期大学部に在籍する幼稚園教諭免許および保育士証の取得を目指している専攻

の学生19名であった。対象の性別は、男性4名、女性15名であり、年齢は、 20.2 ± 2.97 歳（範囲19-34歳）であった。学生は、本講義を行うまでに保育実習Ⅰ（保育所）および保育実習Ⅱ（保育所）を履修し、さらに対象の内15名は幼稚園教育実習Ⅰ・Ⅱも履修していた。

3.2 調査方法

調査は、2020年度後期に開講された保育実習指導Ⅱ（保育所）の第8回から第14回の講義時間にて実施された。講義の回数および内容について、表1に示した。第8回の講義にてクロスロードについての説明を行い、既成のクロスロード「感染症編」の実践を行った。第9回から第10回にて保育・幼児教育におけるクロスロードの問題（以下、クロスロード問題と記す）を作成および推敲を行った。そして、第11回に実践の1回目（以下、実践①と記す）を行い、第12回に実践①の回答の開示と討議（以下、回答討議①と記す）を行った。さらに第13回に実践の2回目（以下、実践②と記す）を実施し、第14回に実践②の回答の開示と討議（以下、回答討議②と記す）を行った。

本稿においては、作成された問題の内、保育内容領域の「健康」に関わる問題について分析の対象とした。分析の対象としたものは、各設問の回答である。倫理的配慮については、講義中に文書および口頭による説明を行い、質問紙調査用紙の提出によって調査参加へ同意したものとみなした。

表 1. 講義回数と内容

回	講義内容	概要
第 8 回	クロスロード説明・感染症編の実践	クロスロードの説明を行い，練習として，クロスロード感染症編を実施した。
第 9 回	クロスロード問題の作成	これまでの対象者の実習での経験および学内における学習の内容から保育・幼児教育におけるクロスロード問題を作成した。
第 10 回	クロスロード問題の推敲	作成したクロスロード問題について，担当教員が質問および添削を行い，問題作成者による推敲を行った。
第 11 回	クロスロード問題の実践①	作成された幼稚園現場におけるクロスロード問題を多数派予測ルールにて実践した。（実践①）
第 12 回	クロスロード問題の回答開示と討議①	実践されたクロスロード問題について，回答の開示とその回答および意見についての討議を行った。（回答討議①）
第 13 回	クロスロード問題の実践②	作成された幼稚園現場におけるクロスロード問題を多数派予測ルールにて実践した。（実践②）
第 14 回	クロスロード問題の回答公開と討議②・振り返り	実践されたクロスロード問題について，回答の開示とその回答および意見についての討議を行った。（回答討議②）

4. 結果

4.1. 作成されたクロスロードの問題

作成されたクロスロードの立場および問題を表 2 に示した。問題は全 15 問作成された。その内、

健康領域の問題は 6 問であった。立場の内訳は、園長 2 件，担当保育士（保育士）4 件，実習生 1 件であった。

表 2. 問題内容および領域

問題 No.	立場	問題内容と選択肢
2	保育士	<p>まだ自分で排泄するのが難しくオムツを履いている子がいます。ですが保護者の方から、練習のためもう普通のパンツを履かせてほしいと連絡が来ました。どうしますか？</p> <p>A. パンツを履かせる</p> <p>B. もうしばらくオムツにする</p>
3	実習生	<p>実習担当しているクラスでは、給食で苦手なものがある子は食べる前に減らしている。クラスでは減らしたら残りは頑張ってお腹いっぱい食べるというルールがある。しかし、今はもう午睡の時間に入りみんな寝ているが、1人だけ食べ切れていない子がいる。減らした残りは半分ほど頑張って食べた。そのまま食べさせますか？</p> <p>A. ルールに従い食べるように促す</p> <p>B. 残して午睡をするように促す</p>
8	5歳児担当保育士	<p>子ども達数人がジャングルジムで楽しそうに遊んでいます。しかし、Aくんは、ジャングルジムの近くにいますがジャングルジムに登ろうとしません。一緒に登るようにさそいますか？</p> <p>A. 誘う</p> <p>B. 誘わない</p>
11	園長	<p>地域に於いて、早朝 04:00am に震度 4 の地震が発生。その後も余震が続いている。園は海沿いの地域にある為、津波が生じた際には甚大な被害がある可能性が高い。あなたは、大至急、園児の保護者全員に連絡を取り、本日は登園させないようにする？</p> <p>A. 登園させない</p> <p>B. 登園させる</p>
12	2歳児担任保育士	<p>好き嫌いがある A 君は今日も苦手な食べ物を減らしました。ごちそうさまをする時見てみるとその食べ物はほとんど食べていないみたいです。食べるよう声かけをすると A 君は泣き出してしまいました。こんな時あなたは A 君に食べるように言いますか？</p> <p>A. 食べるように言う</p>

		B. 食べるように言わない
14	園長	新型コロナウイルス感染症が同じ地域に発生. 市からは対策をきちんとするように言われました. 園を一時的に登園自粛しますか? A.1 週間程度登園自粛して様子を伺う. B.消毒や人数制限をしながら登園させる.

4.2.各設問における回答結果

各設問における回答結果と多数派の回答を表3に示した.

問題2については, A:「パンツを履かせる」の回答が14件(63.6%), B:「もうしばらくオムツにする」の回答が7件(31.8%), 未回答1件(4.5%)であり, Aの回答が多数派であった.

問題3については, A:ルールに従い食べるように促すの回答が7件(31.8%), B:残して午睡をするように促すの回答が14件(63.6%), 未回答1件(4.5%)であり, Bの回答が多数派であった.

問題8については, A:誘うの回答が10件(45.5%), B:誘わないの回答が11件(50.0%), 未回答1件(4.5%)であり, Bの回答が多数派であった.

問題9については, A:頼るの回答が18件

(81.8%), B:頼らないの回答が3件

(13.6%), 未回答1件(4.5%)であり, Aの回答が多数派であった.

問題11については, A:登園させないの回答が18件(81.8%), B:登園させるの回答が2件(9.1%), 未回答2件(9.1%)であり, Aの回答が多数派であった.

問題12については, A:食べるように言うの回答が10件(45.5%), B:食べるように言わないの回答が10件(45.5%), 未回答2件(9.1%)であり, 同数であった.

問題14については, A:1週間程度登園自粛して様子を伺うの回答が6件(27.3%), B:消毒や人数制限をしながら登園させるの回答が14件(63.6%), 未回答2件(9.1%)であり, Bの回答が多数派であった.

表3. 回答結果と多数派回答

問題No.	Aの回答		Bの回答		未回答		多数派
	(件)	(%)	(件)	(%)	(件)	(%)	
2	14	63.6	7	31.8	1	4.5	A
3	7	31.8	14	63.6	1	4.5	B
8	10	45.5	11	50.0	1	4.5	B
11	18	81.8	2	9.1	2	9.1	A
12	10	45.5	10	45.5	2	9.1	-
14	6	27.3	14	63.6	2	9.1	B

5. 考察

正解のない課題を考えるコミュニケーションゲームに「クロスロード」[吉川ほか, 2009]がある。「クロスロード」(Crossroad)とは、「岐路」,「分かれ道」のことで、そこから転じて、重要な決断、判断のしどころを意味する。「クロスロード」元々、1,995年に発生した阪神・淡路大震災の際に得た教訓を生かしゲーム化したものである。すなわち、防災に関する取り組みにしばしば見られるジレンマを素材として、参加者が、自分自身で、二者択一の設問にYESまたはNOの判断を下すことを通して、防災を「他人事」ではなく「我が事」として考え、同時に相互に意見を交わすことをねらいとした集団ゲームである。近年では、災害のみならず、食品安全に関すること、学校安全に関することなどでも応用され作問および実践が行われている。

今回、幼稚園および保育園の現場における「クロスロード」の作問および実践を行い、保育者の保育内容の健康領域に関して、保育者の指導法の在り方について考察を試みた。

幼稚園や保育園などの現場において保育内容の健康領域に関することは多く存在する。平成29年3月に告示された幼稚園教育要領[文部科学省, 2017]では、3歳から5歳における健康領域の内容を10項目にまとめており、その内容は、衣食住を中心とした「生活習慣」に関わること、運動遊びを中心とした「身体活動」に関わること、そして、災害や事故などの予防を中心とした「安全」に関わることに分けられる。保育内容の健康領域を子ども達に指導するにあたり、いわゆる正解のない課題は数多くある。その課題一つひとつに対して、子どもの発育発達を考えて、指導していくことが求められる保育者の果たす役割は大きい。今回、一連の講義の中においては全部で15問のクロスロード問題が作られたが、保育内容の健康領域は最大の6問のクロスロード問題が出来た。矢守ほかは、クロスロード問題をユーザーが作成することによって、地域の抱える問題の共有や理解につながると述べている[矢守ほか, 2006]。今回のクロスロード問題の作成は、今回のクロスロード問題の作問につ

いては、対象が2年目の後期、すべての実習が終了した時点で行われており、自身のこれまでの学びや実習での経験が大きく影響していることが考えられる。保育の現場においても正解のない、ジレンマの伴う課題が多く存在しており、それを自らの経験から考え作問するという一連の流れは、保育内容の健康領域を指導するうえでも非常に効果的であったと考えられる。

クロスロード問題の内容としては、食事を扱ったもの2問、身体活動(運動遊び)を扱ったもの1問、生活習慣の内、排泄習慣を扱ったもの1問、災害からの安全を扱ったもの1問、感染症予防を扱ったもの1問であり、幅広い健康領域の内容の中でも多種多様なクロスロード問題が作られた。運動あそびを中心とした身体活動や生活習慣に関することは、実習での活動で頻繁に行われることであり、対象者にとっても身近で考えやすい内容であったことが考えられる。また、安全対策や感染症予防の作問についても、近年、地震や水害などが多発していること、そして、一昨年から続く新型コロナウイルス感染症の世界的流行(パンデミック)が起きており、保育者にとっても身近な課題として捉えることが出来た結果であると考えられる。

また、クロスロード問題における立場についてみると、実習生という立場だけでなく、各年齢担当の保育者や園長の立場で考える問題もみられた。今回のクロスロード問題の作問については、対象が2年目の後期、すべての実習が終了した時点で行われた。その中で、実習生という立場にとどまらず、各年齢担当の保育者や園長というこれまでに経験したことがない立場での作問も存在した。保育の現場においてはさまざまな職種や役割の人達が職務を遂行している。職種や役割の違いによって保育内容の指導についての考え方や方法論が異なるということは頻繁に起こることである。それに対して、それぞれがその立場を理解し、話し合いや学び合いを行う中で子ども達にとってより良い指導に繋げていくことが重要であると考えられる。

次に作問されたクロスロード問題の実践結果について考察をしていく。クロスロードの実践における一つの方法として、「多数派予測ルール」というものがあ

る。これは、正解のないジレンマの伴うクロスロード問題に対して参加者が与えられた2つの選択肢から多数派であると考えられる選択肢を選択するというものである〔内閣府〕。今回の実践はこのルールを用いて行った。クロスロード問題における良問とは、多くの参加者が議論をする際に自身と異なった様々な意見に触れることができるという観点から参加者の回答が二分する問題である。一方で、少数派の意見も大切にするという観点からグループにおいて1名のみでの回答があった際にはその1名の参加者に得点が与えられるというルールもある^{註1}。今回実践された問題の回答比率をみると、回答比率が5:5になった問題は2問、6:4になった問題は3問、そして、1:9になった問題は1問であった。つまり、回答比率が半々になった問題が2問、回答比率が一方に大きく偏った問題が1問であったということになる。回答比率が半々になったクロスロード問題については、運動遊びでの場面と給食時の場面を扱ったものであった。これらの場面は保育の実習において頻繁にみられる場面であり、対象も実際に経験したことが多かったと考えられる。その学びの中で、自ら考えたり、実践したりする中で現時点での回答を導き出しているのであると考えられる。

一方で、回答比率が片方に大きく偏ったクロスロード問題については、災害安全を扱ったものであった。筆者が保育実習指導の講義の中で短大生を対象に保育者としての重要な資質についての調査した結果、最も重要な資質として、命を預かるという意識が挙げられていた^{註2}。つまり、同じように保育者を目指す対象にとっても、すべての活動において子どもの生命を守るといふことの重要な責務であるという認識があると考えられ、一方に偏った回答になったものと考えられる。

個々人の作問、そして実践における回答やその回答に辿り着くまでの理由には、個々人の保育観が影響しているものと考えられる。保育観とは、子どもとの関係の在り方に関する認識〔舘林ほか、2015〕、もしくは、保育に対して保育者自身が持っている考えや正しいと思っていること〔山本、2017〕である^{註3}。つま

り、保育観は保育者が保育を行う際の羅針盤であるといふことができる。子ども達に対して保育内容の健康領域の指導を行う際にもこの保育観を基にして行うことになる。保育観は、保育士養成施設や幼稚園教諭免許の教職課程、また、授業や保育実習、幼稚園教育実習によりある程度形成される〔宮沢ほか、2007〕。その後入職をし、保育者としての経験を積むにしたがって保育観は変化していくとも言われているが、その時々で自身の保育観に基づいて指導を行っていくことはとても重要なことであると考えられる。今回の保育内容の健康領域のクロスロードの作問と実践は保育に関する様々な役割の立場に立って課題について考えることを可能にする。そして、子ども達を指導する際に必要となる想像力を育むうえでも効果的であると考えられる。

6. 結語

保育内容の健康領域の指導法について、クロスロードの作問と実践により検討した結果、保育に関する様々な役割の立場に立って課題について考えることを可能にすることができ、保育者が子ども達を指導する際に必要となる想像力を育むうえでも効果的であると考えられる。

註

註1: 通常クロスロードの実践は、5名程度の小グループで行われることが多い。今回示したルールとしては、5名程度の小グループで行われる時のルールである

註2: 本年度の保育実習指導I（保育所）において、受講学生に15項目からなる保育者としての資質を示し、最も重要であると思うもの3つを挙げさせた。その結果、「命を預かる意識」が63.0%で最も多かった。

註3: 保育観という用語は、幼稚園教育要領、保育所保育指針、認定こども園教育・保育要領に記載されている言葉ではない。

引用文献

公益社団法人日本WHO協会（2010）：健康の定義，最終アクセス 2021.9.20

<https://japan-who.or.jp/about/who-what/identification-health/>

厚生労働省（2017）：保育所保育指針，最終アクセス 2021.9.20

https://www.mhlw.go.jp/web/t_doc?dataId=00010450&dataType=0&pageNo=1

宮沢秀次ほか（2007）：保育者養成大学生の保育観と子ども観，名古屋経済大学人文科学論文集，79，107-115

文部科学省（2017）：幼稚園教育要領 平成 29 年告示，最終アクセス 2021.9.20

https://www.mext.go.jp/content/1384661_3_2.pdf

矢守克也ほか（2006）：クロスロード—新バージョンの開発とその意義—，日本災害情報学会第 8 回大会予稿集，65-70

矢守克也（2009）：クロスロード・ネクスト 続：ゲームで学ぶリスク・コミュニケーション 第 1 部 クロスロードのポテンシャル，吉川肇子ほか，ナカニシヤ出版，京都，2-12

内閣府ほか（2018）：幼保連携型認定こども園教育・保育要領，最終アクセス 2021.9.20

https://www.mhlw.go.jp/web/t_doc?dataId=0001042

0

内閣府：カードゲームで防災対応を体験 防災シミュレーションゲーム「クロスロード」 防災情報のページ，最終アクセス 2021.9.18

http://www.bousai.go.jp/kohou/kouhoubousai/h20/11/special_02_1.html

館林拓磨ほか（2015）：保育士・幼稚園教諭の保育観と運動指導観，教育研究紀要，1，19-26

山本佳子（2017）：保育者論が学生の保育観にどのような変化をもたらしたか，中国学園紀要，16，205-211

こども学専攻

t-ishikawa@suzuka.ac.jp

A Study on How to Teach
Content of Childcare (Health) : Focusing on CROSSROAD
Problem Creation and Practice

TAKUJI Ishikawa

Key word Content of Childcare (Health) , How to teach , CROSSROAD